

産総研と地域企業

産業振興で連携

環境IOTで安心安全担保



ユードム

事業協創企業

ユードム(水戸市)は1976年の創業以来、社会インフラ領域を中心に、高い信頼性が要求されるシステム開発を行ってきたIoTセンサーと可視化ソフトウェアのソフトウェアの開発。ソフトウェアの開発を手がける一方、環境システム事業では、国立環境研究所との共同研究「二酸化

硫化水素モニタリングシステム



濃度を可視化できるシステムを提案し、共同研究がスタートした。福島県高湯温泉で設置したセンサー類の実証実験を終えれば

長年培ってきたセンシング技術とIoT技術で、再生可能エネルギー研究(REA)が、周辺住民や自治体の理解を得るのが不可欠である。

炭素・メタンの気球ゾンデ観測システムを再生可能エネルギー研究所(REA)が、周辺住民や自治体の理解を得るのが不可欠である。

実証実験では、屋内外9カ所に設置したセンサーから、硫化水素濃度、温度、湿度が、3G回線またはWiFiを通してクラウドサーバに送信・蓄積され、リアルタイムに分解できるIOT(モノリ、温泉地向けシステム)の開発も検討中。

産総研再生可能エネルギー研究センター地熱チーム研究チーム長 浅沼 宏

一言メッセージ

ユードムはセンサー・ソフトウェア開発のノウハウを生かして、安心して安全に地熱エネルギーを利用できるセンシングシステムを開発してきた。実用化への期待は大きいので、早急に商品化してもらいたいと考えている。

地熱発電支援

産総研の設備や研究員の活用は地方の中小企業にとっては大変な貢献が大きい。ユードム常務環境システム事業部長・森(木曜日に掲載)